

Title	終わりに
Sub Title	
Author	大川, 恵子(Ōkawa, Keiko)
Publisher	慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター
Publication year	2024
Jtitle	慶應義塾大学DMC紀要 (DMC review Keio University). Vol.11, No.1 (2024. 3) ,p.72- 72
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	シンポジウム：DMCシンポジウム2023記録 「オープンサイエンス時代におけるデジタル知の深化に向けて： 研究データの共有と公開を考える」 開催日時：2024年3月8日 (金) 14:00～17:00 開催場所：慶應義塾日吉キャンパス協生館2階多目的教室2
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32002001-00000011-0072

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

終わりに

大川 恵子

(DMC 研究センター所長、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授)

本日は長時間にわたり私達のディスカッションにおつきあいいただき、ありがとうございました。個人的には大変楽しい時間を過ごしました。オープンサイエンスというのは、1つのレイヤーの人たちだけでは全然実現できなくて、さまざまなレイヤーの人たちが、いろいろ工夫をすることで実現できるものだというのを再認識しました。

私は、わりと低いレイヤー、すなわち地球上をちゃんとつなぐ、という部分をテリトリーとしております。そして、私たちは最近、生きているだけでデータを生成しているような状況になっています。私もこんな指輪をつけていますが、これはどんどん私のデータを吸い取っておりまして、いつ寝たとか、いつ寝なかったとかがデータとして生成されています。そういうわけで、今日お話を聞いたなかでも、本当にあらゆるところでデータが生成されてきていることがわかります。そのデータをきっちり流通・伝送していく。我々は、そのためのインターネットインフラストラクチャーも、きちんと作っていかなければいけないし、それを守る人たちの人材育成もやっていかなければいけ

ないし、出てきたデータを上手に使うという人たちの人材育成もしなければいけない。また、これからの新しい研究手法として、データを使ってデータを出すということも発生してきています。そのデータそのものの流通、データをエビデンスに変えたあとの流通、さらに、さまざまなところで新しいやり方が生まれてきていますので、それを支えるインフラが大切になっていきます。AIによっても新たなデータ創造とデータ活用が進んでいます。インするデータとアウトされるデータがあればもういろんなことをやり始める人達がいるわけですよ。

私たちは、本日のお話を聞いたなかで、論文として知を残すというだけではなくて、データを残すということもわれわれの大きな使命であり、また、データの解釈の方法を残すということも大きな使命だと感じました。まだまだやることがあるので、なかなか皆さん引退できませんね！

これからもいろんな分野の方たちとこうやってつながる場をつくっていただければと思っておりますので、引き続きこのテーマで、また議論ができるタイミングをつくりたいな、と改めて思っております。

ご登壇いただいた先生方、また、ご来場いただいた皆さま、誠にありがとうございました。

こちらで閉会とさせていただきます。